古墳時代

名前

問1　5世紀の朝鮮半島の情勢において、北部に位置する強大な高句麗が南下政策を進める中、倭（日本）と活発に交流を持ち、共同の利害関係にあった朝鮮半島南部の国々の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年 群馬県公立入試 類似）

1. 百済・新羅
2. 隋・契丹
3. 高麗・渤海
4. 唐・宋

問2　5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。
2. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。
3. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。
4. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。

問3　5世紀の日本において、大和政権が広範囲を支配していたことを示す証拠として、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣があります。この鉄剣には表面に金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれており、そこに見られる、当時の大和政権の王を指す名称として正しいものを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）

1. 聖徳太子
2. ワカタケル大王
3. 卑弥呼
4. 中大兄皇子

問4　古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。
2. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。
3. 九州北部の防備にあたるとともに、防人として東国から徴集された。
4. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。

問5　古代、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々は、仏教とともに漢字を日本へ伝えました。この、大陸から移住して日本列島の文化や政治に大きな影響を与えた人々を何と呼びますか。（2026年 神奈川県公立入試 類似）

1. 遣隋使
2. 防人
3. 御家人
4. 渡来人

問6　古墳時代、朝鮮半島から伝えられた技術を用いて作られた土器があります。斜面を利用した穴窯（あながま）の中で、1000度以上の高温で焼き締められた、灰色で硬質な特徴を持つ土器の名称を答えなさい。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 須恵器
2. 土師器
3. 弥生土器
4. 縄文土器

問7　古代の日本と朝鮮半島の国々との関係について、百済が大和政権に与えた影響を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった
2. 大和政権に対して、魏志倭人伝に記されたような金印を授与して冊封関係を結んだ
3. 日本に鉄資源を供給することを主な目的として、九州北部に軍事拠点を置いた
4. 唐と結んで、朝鮮半島を初めて統一するための軍事的な支援を日本に求めた

問8　倭の五王の一人である「武」は、中国の南朝の皇帝に上表文（手紙）を送り、自らの祖先がいかにして国土を広げたかを伝えました。この「武」は、日本の歴史上のどの人物であると比定（推定）されていますか。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. ワカタケル大王（雄略天皇）
2. 卑弥呼
3. 聖徳太子（厩戸王）
4. 中大兄皇子（天智天皇）

問9　古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
2. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
3. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問10　5世紀、ヤマト王権の首長たちは「倭の五王」として中国の南朝へ使者を派遣し、朝貢を行いました。この外交活動の主な目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため
2. 隋に対して対等な立場での外交を求め、中国の進んだ律令制度をいち早く導入するため
3. 邪馬台国の卑弥呼が魏から受けた称号と同様の権威を背景に、九州地方の豪族を支配するため
4. 仏教の公伝をきっかけとして、大陸の進んだ建築技術や工芸品を組織的に輸入するため

問11　古墳時代のヤマト政権における、大王と豪族の関係性や政治の仕組みについて述べたものとして、正しいものはどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）

1. 大王は中国の皇帝から派遣された官僚であり、豪族の意見を聞かずに政治を行った。
2. 大王は宗教的な権威のみを持ち、実際の政治や軍事の権限はすべて豪族が握っていた。
3. 大王はすべての豪族を武力で排除し、対等な関係を持つ勢力が存在しない独裁体制を築いた。
4. 大王は、有力な豪族たちと連合し、彼らを従えることで政権を運営した。

問12　古墳時代中期（5世紀）の日本において、近畿地方に巨大な前方後円墳が相次いで作られた一方で、熊本県や埼玉県という離れた地域から同一の大王名が刻まれた鉄剣が発見されている理由として最も適切なものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。（2025年 宮崎県公立入試 類似）

1. 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから
2. 九州地方の邪馬台国が全国の首長を従えて巨大な墳墓を各地に建造させたから
3. 中国の皇帝から与えられた鉄剣を全国の首長が共有して保持していたから
4. 地方の首長たちが独自に近畿地方の技術を模倣し、政治的影響力を強めたから

問13　400年頃に倭王が中国へ使いを送っていた記録がある時代から、平城京へと遷都されるまでの期間にかけて、日本列島では大陸との交流が盛んに行われました。この時期の文化や技術の伝来について述べた文として、正しいものを選択してください。（2023年 愛媛県公立入試 類似）

1. 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。
2. 大陸との交流を通じて、源氏物語や枕草子に代表される国風文化が花開いた。
3. 中国から大量の銅銭が流入したことで、須恵器に代わって貨幣経済が急速に発達した。
4. 大陸から最新の農業技術が伝わり、脱穀のための千歯扱きが全国に普及した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 百済・新羅	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島北部の高句麗が勢力を拡大していました。これに対抗するために、半島の南部に位置した百済や新羅は倭（日本）と結びつきを強め、軍事的な衝突や技術・文化の交流が行われました。この国際関係は、当時の倭王が中国の南朝に朝貢した理由の一つにもなっています。
問2	答え 4 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問3	答え 2 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌によって「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」の名が刻まれています。この王は『日本書紀』や『古事記』に登場する雄略天皇にあたると考えられており、5世紀ごろの大和政権の強力な支配力を示す重要な史料となっています。
問4	答え 2 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問5	答え 4 渡来人	4世紀から5世紀以降、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住んだ人々は、土器の製作、織物、灌漑などの技術とともに、それまで日本にはなかった文字（漢字）や、精神的な教えである仏教をもたらしました。彼らはその知識や技術を活かし、古代国家の形成において重要な役割を果たしました。
問6	答え 1 須恵器	古墳時代には朝鮮半島から渡来人によって新しい製作技術が伝えられました。それまでの日本列島で伝統的につくられてきた、野焼きで赤褐色の土師器に対し、須恵器は密閉された窯を用いて高温で焼成されるため、灰色で非常に硬い仕上がりになります。この技術革新により、より実用的で堅牢な容器の生産が可能になりました。
問7	答え 1 大和政権と結びつき、仏教や儒教などの大陸文化を伝える窓口となった	百済は朝鮮半島における軍事的緊張の中で大和政権と結びつき、その見返りとして先進的な技術や文化を日本へ伝えました。特に6世紀の聖明王による仏教の伝来は、その後の飛鳥文化の発展につながる歴史的な転換点となりました。他の選択肢にある半島統一は新羅の役割であり、金印の授与は中国の王朝との関係です。
問8	答え 1 ワカタケル大王（雄略天皇）	倭の五王の最後の一人である「武」は、埼玉県で見つかった稲荷山古墳の鉄剣銘などに記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」、すなわち雄略天皇であると考えられています。この時期、ヤマト政権の支配範囲が関東から九州にまで及んでいたことが、金石文と中国の歴史書の両方の記述から裏付けられています。
問9	答え 3 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問10	答え 1 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため	5世紀のヤマト王権にとって、武具や農具の材料となる鉄資源の確保は極めて重要でした。そのため、鉄の供給源である朝鮮半島南部での軍事的な影響力を強化することや、中国の皇帝から称号を授かることで、国内の有力な豪族たちに対して自らの王権の正当性を示すことが、この外交活動の大きな目的となっていました。
問11	答え 4 大王は、有力な豪族たちと連合し、彼らを従えることで政権を運営した。	ヤマト政権は当初、奈良盆地などの有力な勢力が結びついた「連合政権」としての性格が強いものでした。大王は、各地の豪族に「氏（うじ）」や「姓（かばね）」という地位を与える氏姓制度などを通じて、彼らを組織的に従えながら統治を進めていきました。
問12	答え 1 近畿地方を本拠地とするヤマト王権が地方の首長と結びつき、支配勢力を広範囲に拡大させたから	5世紀には近畿地方を中心に大王の権力を示す巨大な前方後円墳が築かれました。また、関東や九州の地方首長の墓から近畿の大王（ワカタケル大王）の名を刻んだ鉄剣が出土することから、近畿のヤマト王権が各地の首長を配下に組み込み、全国的な支配勢力を拡大させていったと考えられています。
問13	答え 1 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。	古墳時代の5世紀前後から、朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ「渡来人」は、当時の日本に存在しなかった高度な技術や文化を伝えました。これには、須恵器の製作技術のほか、機織り、金属工芸、さらには漢字や儒教、そして後の飛鳥文化の基盤となる仏教などが含まれます。選択肢にある「国風文化」は平安時代中期、「千歯扱き」は江戸時代の特色であり、この時期の出来事とは一致しません。